

(様式第4号)

上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会 会議概要

1 審議会名	上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会
2 日時	令和7年1月28日(火)午後1時30分から午後3時分まで
3 会場	上田市役所本庁舎5階 大会議室
4 出席者	飯島会長、前田副会長、滝沢委員、小市委員、龍野委員、佐藤委員、柳澤委員、山寄委員、遠藤委員、小池委員、山岸委員、齋藤委員、前田委員、田中委員、宇佐美委員
5 市側出席者	北島福祉部長、西澤高齢者介護課長、酒井課長補佐、召田認知症地域支援推進員、駒津認知症地域支援推進員、石原認知症地域支援推進員、中村認知症地域支援推進員、佐々木高齢者支援担当
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者0人
8 会議概要作成年月日	令和7年1月31日

協 議 事 項 等

- 1 開会 (高齢者介護課課長)
今までに引き続き、会長を飯島委員、副会長を前田委員にお願いします。
- 2 あいさつ
福祉部長 本日は、認知症アンケートの結果や、前回の春原治子様、櫻井記子様、神林芳久様の新しい認知症観等のお話し等を踏まえ、認知症の都市宣言の名称や宣言文について御議論をお願いしたい。それぞれのお立場からの視点で、きたんのない御発言をお願いします。
会長 本日は事務局の提示した資料を参考にし、宣言の名称についてはこの場で決定したい。また宣言文については、委員の皆さまからご意見を伺い、次の協議会で決定をしていきたい。
- 3 協議 「認知症希望宣言 策定について」
【名称について】
事務局 別紙 案1～15について説明
会長 事務局から提示のあった名称案について、ご意見ををお願いします。
委員 案3・4のように「認知症でも」という言葉が入っているが、「でも」というのは否定的な印象があり、また認知症を区別しているようにもとれる。
委員 案5の「認知症の人」と記載すると、直球過ぎて対象が限定されてしまう可能性がある。都市宣言は市民全員で宣言するものであればふさわしくないと感じる。
委員 案2の“認知症とともに生きる”というのがずっと入ってくるようで良いと思う。
委員 同じく案2が、認知症に対する偏見を減らす事に繋がる名称だと感じる。
委員 案2に「希望」という単語を入れるとよりインパクトが強くなると思う。
委員 賛成多数。
会長 概ねの意見として案2を基に検討でよろしいですか。
委員 賛成。
会長 では案2は「希望」という単語を入れた方がよいでしょうか。また入れる場合は、どこに入れるのがよいか。
→多くの委員の多数決により「希望」を入れることに決定。また、「宣言」の前に「希望」をいれた方が良いという意見が多数。
会長 では文章中にある「生きる」の記載は、漢字とひらがなどちらの記載が良いか。
委員 →多くの意見として、「生きる」と漢字表記のほうが読みやすいという結果になる。
会長 では、名称は「認知症とともに生きるまち・うえだ 希望宣言」に決定します。

【宣言文について】

事務局 宣言文は、宣言1：正しい理解と環境づくり、宣言2：本人意思、宣言3：予防、宣言4：まちづくり の4つの視点から宣言文案を作成しました。他に追加した方がよい視点がありましたらご提案いただきたい。

委員 4つの視点以外に追加項目特になし。

事務局：全て、案の一つは委員が作成、もうひとつの案は事務局が作成した。

①正しい理解、環境づくり

事務局 説明。

委員 案1に比べて、案2の方が分かりやすい。案1の「気づき」は主語が不明確に感じる。

委員 案1の「地域で支え合います」は、宣言4のまちづくりに該当するのではないか。

委員 新しい認知症観の理解の啓発についても触れられたら良い。

委員 “子どもから大人まで”の全世代が対象になることをしっかり記載できるとよい

会長 案2を中心に、事務局で案を再度検討するというところでよろしいですか。

委員 賛成

②本人意思

事務局 説明。

委員 案2の「今までどおりの生活が持続」という部分は、認知症が進むなかで必ずしも今までどおりの生活を皆が実現できるわけではない。「今までどおりの生活」よりも、「希望」ももって生活できることが大切だと思う。

委員 認知症の方であっても“意思”はあるため、その意思が尊重され誰もが選択し続けることが大切。

委員 “認知症の人の思いを形にする”“希望”という表現が入るとよい。できないことは増えても、感情は最後まで残る。

委員 案1の「笑顔」について、笑顔でいることは強制されたくないので入れなくてもよいと思う。

委員 案1・2どちらも、視点や主語が分かりにくい。

委員 案2の「認知症の人が」を主語にしてしまうと、都市宣言は市民全員が宣言するものであるためふさわしくないと思う。

会長 上記意見をふまえ、事務局で案を再度検討するというところでよろしいですか。

委員 賛成

③予防

事務局 説明。

委員 案1の「目と耳を開いて」は視覚障害や聴覚障害の方が難しいこともあり気持ちが気になる。

委員 案1は、一文が長く焦点が絞りにくい。逆に案2は一文が短い。集うことや笑い、人とつながることの大切さを伝えるために、「皆で集い、ともに笑い、ともに話し、誰もがなりうる認知症に備えます」とするのはどうか。

委員 上記の案は、具体的に予防について表現されており、賛成。

委員 食事や運動などの生活習慣を整えることも認知症予防につながるが 改めて生活習慣も含めて予防であることを記載した方が良いのかは悩むところ。

会 長 案2を中心にして、事務局で案を再度検討するというところでよろしいですか。

委 員 賛成

④まちづくり

事務局 説明。

委 員 案1の「認知症のかたを含む」とわざわざ記載すると、区別に繋がってしまう可能性がある。
「一人ひとりが認知症を自分ごとと捉え」という文章はどうか。

委 員 認知症は誰もがなりうるものにとらえた中で、尊敬と尊重の思いで「認知症をすべての人が自分
事としてとらえ、互いを尊重し、支えあい、安心して暮らせる住みよいまちづくりをつくれます」
はどうか。

委 員 青森県五所川原市の宣言文で「認知症の人をみんなで支え合うまちづくり宣言」とあるが、その
ように、「子どもから大人まで」と記載されると、全ての市民が対象になるのでよい。

会 長 上記の意見を参考にして、事務局で案を再度検討するというところでよろしいですか。

委 員 賛成

4 その他

事務局 次回の協議会の日程等について

5 閉会 (高齢者介護課課長)